

11 教員組織

進捗状況報告

商学部では従来から人事委員会を設け、空き枠ができた場合の適合科目の検討を含めて、教員の任用、昇任に関する予備的な判断を委ねている。2007年度からの大学による教員組織の改編に伴い、学部としても教員選考内規を改めて制定した。

任期制教員制度の活用についても2007年度から新たに1名の実務家教員を迎えている。

TAについては、検討は継続して行っているが、専門や授業形態等との関係で人材の適合性等に問題が残存していることから、さらに検討を行う。

教員委員会間の連携に関しては、研究会委員会とFD委員会との連携が定着し、今後、エコ・キャンパス委員会等との連携も予定されている。

学内第三者評価

商学部では、2005年度の自己点検・評価の記述を見ても、採用・昇任に関して人事委員会および人事査定委員会によって厳正に運用されている。

ただし、ティーチングアシスタント（TA）制度の活用に向けては2005年度から検討をしており、積極的な活用に向けてできるだけ早い時期に一定の結論へ収束することが望まれる。

また、2005年度の「改善の具体的方策」では、「【評価項目11-0-4】教育研究活動の評価」で今後特に教育研究活動の評価基準の明確化について本格的に検討する必要がある、と記しており、進展が望まれる。

なお、進捗状況報告の記述に、教員選考内規はどのように改めたかを記す必要がある。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

・教員委員会間の連携（研究会委員会とFD委員会との連携、今後、エコ・キャンパス委員会との連携）によって、具体的にはどのような成果がもたらされているのかについて説明がほしい。